

《実行委員会メンバー》

千葉大生 小川采夏さん



片田美桜さん



にインタビュー

千葉大学 ボランティア活動支援団体 C-vol とは…学生支援課「ふれあいの環」2009年4月創立。6つの団体によって構成されている中の1つが C-vol でボランティアの企画・運営や、ボランティア情報の発信を通じて、千葉大学生のボランティア活動を支援することを目的に活動しています。全体の在籍人数は70名、うち、東日本大震災に関する人数は10名。

質問 ボランティア活動支援団体 C-vol (福島県東日本大震災)に携わろうと思ったきっかけは？

小川さん:震災当時小学2年生で学校にいたときに大きな花瓶が大きな音で割れたことを覚えています。その後、災害状況をテレビで見ている被災者さんの現状を知りたいと思っていたとき、ボランティアの中でも千葉大の C-vol は「自分で企画することができること」、「被災地の状況を自分の知識にもできるし、その知識を活かして知らない人に伝えられる」と二つのことができるのが魅力と感じ携わろうと思いました。

片田さん:高校生の時からボランティア活動をしたいと思っていた、千葉大では C-vol を通して被災者さんと関わることができ、被災状況等を知ることができること、C-vol だからこそ経験できることがあるのではないかとの思いで携わろうと思いました。

質問 実際、被災者さんに関わってみての感想や今後の活動について教えてください。

小川さん:2022年の縁 joy 交流会から参加しています。その時、編み物をしながら交流したのですが、知識が凄いこと。普段の生活では関わることのない年代の方と話げたことや避難元への思いを伺うことができました。普段は明るく元気な方も懐かしい歌や被災元に関する紙芝居を見て涙している姿、司法書士さんと話している方を見てまだまだ解決していないことがあるのだと感じました。この色々感じたことを「震災を知らない人」に伝えていきたい。そして、将来、災害時にいかに何かを作っていけたらなあと思います。

片田さん:直接関わってみて現状を知ることができました。一人として同じ状況ではないこと、復興に向かっているという情報を目にするのがあっても時が止まっているような気がしました。今後、現場に行ってみたい、自分の目で確かめてみたいとの思いが強くなりました。

【応急仮設住宅の供与期間の延長及び終了について】

大熊町及び双葉町から避難されている方へ応急仮設住宅の供与期間を、令和8年3月31日までさらに1年間延長した上で、今回の延長をもって供与を終了します。(県外の民間賃貸住宅、ビレッジハウス及びUR住宅についても、上記のとおり対応いただくよう要請しています。)

ふるさとへの帰還や今後の生活再建に関するご相談については、下記相談ダイヤルまでお問い合わせください。

《問合せ先》 福島県 被災者の暮らし再建相談ダイヤル ☎0120-303-059

受付時間 午前9時～午後5時(月曜日～金曜日[除く祝日・年末年始])

【避難者住宅確保・移転サポート事業について】

福島、茨城、栃木、千葉、東京、神奈川及び新潟の各県で、応急仮設住宅の供与期間終了後の新たな住まいの確保を支援するため、「避難者住宅確保・移転サポート事業」を実施しています。ご自分で住宅を見つけられずお困りの方に、物件探しや契約時の書類作成などの支援を行い、生活再建を後押しします。

千葉県 認定特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

☎080-5418-7286

受付時間 午前10時～午後5時(月曜日～金曜日[除く祝日・年末年始])



《問合せ・申込み》 認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

電話: 043-303-1688または080-5418-7286

メールアドレス: npo-club@par.odn.ne.jp

東北と千葉の出逢いが広がりますように

エンジョイ

縁 joy Vol.100 2024.12.1

発行:認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
連絡先:〒261-0011 千葉市美浜区真砂 5-21-12
☎043-303-1688 E-mail npo-club@par.odn.ne.jp
発行部数:2,000部
福島県から千葉県へ避難されている方の数:1,286名
(復興庁ホームページより 令和6年8/1現在)

東日本大震災災害者支援・復興イベント

10/3(木)4(金)5(土) 「縁 joy 交流会」2024 開催報告

10月3日～5日【展示企画】【相談・交流スペース】5日のみ【交流ブース】【当事者団体ブース】【ステージ企画】【原子力賠償・廃炉等支援機構】の相談を開催しました。(3日間来場者延べ150人)情報紙「縁 joy10月号」をみて交流会に初めて参加したという方もいたので新たな出会いがあり、久しぶりに避難元の方々と話したととても喜んでお帰りになりました。震災から13年が経ちますが、「心の復興」がまだなのでは…と感じました。今後も交流の場作りと震災を伝えて行くことを続けていきたいと改めて思いました。



会場:千葉市きぼーる1Fアトリウム 全体写真



福島県避難者支援課 塩谷さん



千葉県危機管理政策課 野平さん



実行委員会メンバー 井戸川さん



当事者団体ブース



歌唱 普天間かおりさん 千代田信一さん(双葉町)



県内団体、千葉大 C-vol によるワークショップ



ステージ企画 普天間かおりさん



実行委員会メンバー(全員ではなく一部です。)